

各 位

2021年10月22日
株式会社インプレス

賢いお金の増やし方を3大節税制度から説明
『マンガと図解でよくわかる つみたてNISA&iDeCo&ふるさと納税』
を10月20日(木)に発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:小川 亨)は、3大節税制度による資産運用の入門書『マンガと図解でよくわかる つみたてNISA & iDeCo & ふるさと納税 ゼロからはじめる投資と節税入門』を2021年10月20日(水)に発売しました。



■「貯金と年金だけでやっていけるの?」という不安に答える

人生100年時代と言われ、退職後の人生が長期化する一方、社会変化の激しい時代にあり、「貯金や年金だけでやっていけるの…?」という不安を抱く人が増えています。そんな中、注目されているのが、国の3大節税制度「つみたてNISA」「iDeCo」「ふるさと納税」です。いずれも、たんなる貯蓄ではなく、資産運用によってお金を増やし、老後へ向けた資産形成を行おうとする人を支援する制度です。

本書は、これら3大節税制度の仕組みと活用方法を、マンガと図解を用いて、わかりやすく解説する書籍です。貯蓄だけでは将来が不安な人に向け、賢いお金の増やし方を、資産運用・形成によって解消していく方法を解説します。マンガで自分ごと化でき、図解で仕組みもバッチリ理解できる、投資や節税入門者にもおすすめできる一冊です。

■長期・積立・分散投資の基礎知識が身につく

「つみたてNISA」と「iDeCo」を活用して、賢い資産形成を築いていくには、長期・積立・分散投資の知識も必要です。本書では、主に投資信託の仕組みや金融商品の選び方、運用方法を題材にして、それらの投資方法について、詳しく解説します。また、年齢や家族構成によって運用方法も変わることから、ライフステージ別につみたてNISAとiDeCoの運用法を紹介している点も、幅広い読者層の参考になります。

■購入者限定特典、電子書籍（PDF版）がもれなく付いてくる

本書をご購入いただいた方には、もれなく電子書籍（PDF版）のダウンロード特典が付いてきます。タブレットやスマートフォンなどでも読みたい場合に、ご活用できます。

<紙面イメージ>



各章の冒頭にあるマンガによって、難しそうな投資や節税の利点も理解しやすい

ドル・コスト平均法のイメージ

	A	B	C	D	E	H
買付金額(円)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
買付口数(口)	10,000	11,111	9,259	10,753	8,850	49,973

安くたくさん買った口数が多いので、1万円あたりの平均買付単価は1万5円です。

	A	B	C	D	E	H
買付金額(円)	10,000	9,000	10,800	9,300	11,300	50,400
買付口数(口)	10,000	11,111	10,000	10,000	10,000	50,000

1万円あたりの平均買付単価は1万80円です。

毎月、同じ金額を積み立てるだけ。値下がりしたときは、たくさん買い込んでじっと待つ。「ラテン投資法」です。

SECTION 37

投資信託

投資信託の積立は毎月同じ金額を購入すると、価格変動リスクを平準化できる。

「ドル・コスト平均法」が効果を発揮!

同じ金額を毎月買い付けることで、価格変動リスクを平準化できる。

投資信託では、毎月同じ金額を買い「定額購入」と、毎月同じ口数を買い「定額購入」という2つの買い方があります。このうち、長期の積立投資で強みを発揮するのが定額購入です。

投資信託は1日1回、時間・基準価額が決まります。毎日価格が変化するので、定額購入の場合は購入できる口数が変わり、定額購入の場合は支払う金額が変わることになります。

例えば、左ページの図は、毎月1万円分を購入したとき（定額購入）と、毎月1万円分を購入したとき（定額購入）の比較です。定額購入だと価格の高いときに少し、価格が安いときには多く買い付け、結果的に平均取得単価が安くなっています。

このように、定期的に定額で購入することで「ドル・コスト平均法」を平準化する投資手法を「ドル・コスト平均法」といいます。投資は買ったときよりも高く売るのが儲けのセオリーなので、通常値下がりには歓迎されませんが、定額購入なら、価格が低いときは購入口数が多くなり、長期投資では、安いときの購入効果が大きいというメリットがあります。

ときには収益が期待できるため、値上がり局面でも「たくさん買った」と考えやすくなるわけです。値動きに「一喜一憂することなく、淡々と積み立てられるドル・コスト平均法は、投資初心者や長期投資するのにとっぴり投資手法なのです。

※口数は基準価額100円を1口と仮定して計算しています。

解説ページはすべて見開きで、豊富な図解を用いてわかりやすく展開しています

○ 30代新婚の場合のポートフォリオ


CASE 2
30代・新婚・共働き

Bさん

夫 (30歳・会社員)
妻 (29歳・会社員)
賃貸マンション暮らし
世帯年収 **500万円**
(夫 300万円、妻 200万円)


■ 夫

つみたてNISA 月 2万円



■ 妻

iDeCo 月 1万円



夫婦の役割は家庭によっても異なります。収入や役割が逆のパターンもあります。あくまで年代別の目安として参考してください。

SECTION 43

つみたてNISA & iDeCo

30代新婚。妻も働き続ける予定。2人の運用方法は？

CASE 2 ▶ 世帯年収500万円の新婚

夫婦で力を合わせて資産形成していこう。30代新婚の場合、まだ出産やマイホーム購入の予定がなかったとしても、自分のことだけ考えていられない時期でもうありません。少しずつ将来の人生を見据えながら、資産形成をしていく必要があります。また、今回のケースでは、結婚後も妻が働き続ける予定です。そこで、夫だけではなく妻も積立投資をして、今後のファミリーのためにも夫妻で資産形成を行いましょう。

夫は、マイホームの購入資金や教育資金に備えてつみたてNISAで毎月2万円を積み立てています。ポートフォリオは、バランス型50%、全世界株式型50%にして積極的な運用を目指します。

一方、老後資金に備えてiDeCoでも毎月1万円を積み立てます。こちらは株式型を基本にしつつ、債券型も組み込み、20代の独身時に比べるリスク面にも気を配っています。

妻は、老後資金に備えてiDeCoで毎月1万円を積み立てています。積立額が少ない代わりに、ポートフォリオは、株式型100%で、攻めの運用を心がけていきます。

今後、妻が子育てのために家庭に入ることも考えられますが、毎月5,000円で構わないのでiDeCoへの積み立ては継続していくことが大切です。また、その後子育てがひと段落して仕事に復帰する場合は、そのタイミングで積立金額を毎月1万円に戻すを良しとします。

ライフステージ別におすすめのつみたてNISA・iDeCoの運用法を紹介しています

<本書はこんな人におすすめです>

- つみたてNISA&iDeCoを元に投資と節税の基礎を知りたい方
- 賢い資産運用、資産形成を知りたい方
- 老後の資金づくりを賢く行いたい方
- ふるさと納税の節税割合や確定申告の仕方を知りたい方

■目次

- 第1章 「貯金と年金だけでやっていけるの？」の“もやもや”を解消しよう
- 第2章 つみたてNISAのしくみと活用法
- 第3章 iDeCoのしくみと活用法
- 第4章 つみたてNISA・iDeCoで使う「投資信託」って何？
- 第5章 ライフステージ別 つみたてNISA&iDeCoの賢い運用法
- 第6章 ふるさと納税のしくみと活用法
- 第7章 投資スタート後の“もやもや”を解消しよう

■書籍の情報



書名：マンガと図解でよくわかる つみたてNISA&iDeCo&ふるさと納税 ゼロからはじめる投資と節税入門

著者：酒井富士子

発売日：2021年10月20日（水）

ページ数：176ページ

サイズ：A5判

定価：1,430円（本体1,300円＋税10%）

電子版価格：1,430円（本体1,300円＋税10%） ※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01273-3

◇Amazonの書籍情報ページ：<https://www.amazon.co.jp/dp/4295012734/>

◇書誌情報：<https://book.impress.co.jp/books/1121101037>

◇書影ダウンロード：<https://dekiru.net/press/501273.jpg>

■著者プロフィール



酒井富士子（さかい・ふじこ）

経済ジャーナリスト、金融メディア専門の編集プロダクション・株式会社回遊舎 代表取締役。日経ホーム出版社（現日経BP社）にて「日経ウーマン」「日経マネー」副編集長を歴任。リクルートの「赤すぐ」副編集長を経て、2003年から現職。「お金のことを誰よりもわかりやすく発信」をモットーに、暮らしに役立つ最新情報を解説する。

<http://www.kaiyusha.net/>

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 7,500 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向け IT 関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、及びデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。